

「暗渠」

「暗渠」とは蓋をされた河川や、地中に埋設した水路のことを指す。

最近では街歩きの一つの視点としても注目されているが、その中でも「渋谷川」は本やテレビなどのメディアで取り上げられることもあり、知名度が上がってきている。普段何気なく歩いている道路の下に何があるのだろうか。



『東京「暗渠」散歩』

本田 創／編著 実業之日本社 2021

東京の山の手地区にはかつて無数の川が流れていた。そのほとんどが暗渠と化した水のネットワークをたどり、豊富な写真や地図とともに紹介する。超特大暗渠地図つき。



『優しいおとな』

桐野 夏生／著 中央公論新社 2010

近未来の渋谷でたたかき生き抜くホームレスの少年・イオン。彼は家族をもたず、信じることを知らない。イオンの孤独な魂はどこへ行くのか…。

近未来を舞台としながらも渋谷の地下に広がる空間など現在の渋谷の街にも共通する場所もあり、想像が広がる。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、
おすすめ本の情報を発信して
いく、渋谷区立図書館が発行
する定期刊行物です。

渋谷読書人 2021年8月・9月号

発行 / 編集 渋谷区立図書館

株式会社図書館流通センター

発行日 2021年8月

渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



空を見上げてみよう

空に関わる小説の他、写真集や朝ドラで話題の気象予報士の本まで幅広く空にまつわる作品を紹介します。



『空飛ぶ広報室』

有川 浩／著 幻冬舎 2012

職業、広報官。取扱商品は「航空自衛隊」！
事故により戦闘機パイロットとしての道を絶たれた空井大祐が配属されたのは、航空幕僚監部。待ち受けていたのは一癖も二癖もある先輩たちで…。



『Mr. トルネード』

佐々木 健一／著 文藝春秋 2017

日本、アメリカ、戦争、原爆、死、そして謎の墜落事故…。「ダウンバースト」を発見し、航空事故を激減させた天才気象学者・藤田哲也の実像を明らかにする。NHKの番組「プレイブ 勇敢なる者」の取材内容をもとに書籍化。



『はい、こちらお天気相談所』

伊東 譲司／著 東京堂出版 2012

雲ってなんでできているの？ 日本に四季があるのはどうして？ 気象庁天気相談所に届いたお天気に関する疑問や質問を、雨、風、雲、地震、津波、台風などのテーマに分けて解説する。



『雲をつかむ死』

アガサ・クリスティー／著 加島 祥造／訳
早川書房(ハヤカワ文庫) 2004

フランスからイギリスへ飛ぶ旅客機で、殺人事件が起きた。遺体の首筋には、針で刺されたような傷がのこり、間もなく発見された吹き矢の針にはおそるべき毒ヘビの毒が塗られていた。名探偵エルキュール・ポアロの推理が始まる！

『もくもく東京湾』

関戸 勇／著 岩波書店 2011

ゾウは鼻を振り上げ、シロクマは後ろ姿で座り、ジェット機型の雲は風に乗って飛んでいく…。船の上から空を見上げて20年。船上カメラマンが刻一刻変化する雲の一瞬をとらえたコンパクトな写真集。



『宮沢賢治の鳥』

国松 俊英／文 館野 鴻／画 岩崎書店 2017

野山で出会った鳥たちを多くの童話や詩に描き、自分の願い、あこがれ、祈りを託した宮沢賢治。夜の狩人ふくろう、翡翠の羽をもつかわせみ、天上をめざす鳥よたか…。宮沢賢治の作品に登場する鳥たちを美しい絵とともに紹介する。

『けさの鳥』

山岸 哲／文 田中 光常、他／写真

朝日新聞社 2004



森が深ければ、水が清ければ、そこが鳥たちのすみか。日本の鳥333種を「山地の鳥」「草地の鳥」「水辺の鳥」「里の鳥」「稀少な鳥」の項目で美しい写真とともに収録。2003年5月～2004年4月「朝日新聞」連載をまとめる。



『青空の卵』

坂木 司／著 東京創元社 2006

僕は坂木司。外資系の保険会社に勤めるかたわら、滅多なことでは外に出ない引きこもりの探偵、鳥井真一の助手をしている。坂木司のデビュー作。

気になる新着コーナー



『迷子の龍は夜明けを待ちわびる』

岸本 惟／著 新潮社 2021

少数民族である天空族のセイジは、「余命わずかな主人のために、妻の遺した日記を読み聞かせてほしい」という依頼を引き受ける。だが訪れた山の屋敷には、ある家族を襲った哀しい事件の真相と、天空族の秘密が眠っていて…。



『マイ・シスター、シリアルキラー』

オインカン・ブレイスウェイト／著 粟飯原 文字／訳
早川書房 2021

ナイジェリアの大都市ラゴスに母と妹とともに暮らす看護師コレデ。彼女は妹が犯す殺人に悩まされていた。コレデは妹を守るため犯行の隠蔽を続ける一方で、昏睡状態の患者に心中を打ち明ける日々を送っていたが…。

写真や絵で楽しむ